

学ぶ力向上にかかわる課題

○国語科

- ・「グループ学び」や「みんな学び」など、学び合いを取り入れた授業を進めることで、自分の思いや考えを伝える力、友だちの思いや考えを聴く力は定着しつつある。考えを練り合う姿も見られるようになってきた。今後は、さらに深い学びを目指す必要がある。
- ・自分の考えを自分なりに書く力についてきたが、目的や場に応じて、資料をもとに書く力が弱い。
- ・話の展開にそって質問したり、考えを述べたりする力に弱さが見られる。
- ・ローマ字の読み書きの定着に課題がある。

○算数科

- ・図形に関して示された条件を基に考える力や**書く力**が弱い。
- ・根拠を示しながら、図や式、グラフなどを使って、自分の考えをわかりやすく伝える力が弱い。
- ・計算など基礎的、基本的な力は定着してきているが、個人差が少なくなりつつある。

○基本的な生活習慣・学習習慣

- ・基本的な生活習慣や学習習慣は良い傾向で定着しつつあるが（**休日の学習時間が確保されつつある**）個人差が見られる。
- ・**自尊感情は年々高まりが見られる。**
- ・規範意識も少しずつ高まってきているが、個人差が見られる。

学ぶ力向上へのアプローチ

『学ぶ意欲・習慣』からのアプローチ

- ・校内研究では、協同的な学び（**共に学び、共に高め合う**）を通して課題解決の筋道を深く追求する児童の育成を行う。
- ・「話し手の顔を見て考えながら話を聴く姿勢」を習慣化させる。（目と耳と心で聴く）
- ・**ねらいに通じる**「めあて」を提示することで見通しをもって授業に参加させるとともに、ふり返りをしっかりさせ、**自己評価と新たな課題の設定へとつなげる。（授業のPDCAサイクル化）**
- ・一人ひとりが活躍でき、満足感、成就感を感じることが出来る授業を行う。
- ・基本的な学習規律と**学習の自立**を再確認し、全職員で徹底する。
- ・提示方法を工夫（**タブレットなどICTの利用等**）し、学習への興味関心を育てる。

『基礎的・基本的な知識・技能』（リテラシー）からのアプローチ

- ・低学年から**高学年への系統性を大切に**する。
- ・短時間学習「エネルギータイム（火・木）」では、**基礎学力**をつけていく。
- ・字数制限を設けたり、使用するキーワードを指定したりするなど、条件をつけて文章を書かせる活動を積み重ね、目的や場に応じた文章を書く力を伸ばす。
- ・図や式、グラフなどを使い、根拠を明らかにしながら自分の考えを話したり、書いたりする活動を意識的に取り入れ、わかりやすく説明する力を伸ばす。
- ・学習した漢字は、書く文章の中で必ず使うよう指導し、身につけさせる。
- ・算数科の最初の5分間に、計算プリントなどを活用した復習タイムの取組を継続する。
- ・算数科では、**必要に応じて**習熟度別による復習を行う。
- ・全学年で、統一したノート指導を行い、学習内容の理解に繋がると共に書く力を伸ばしていく。
- ・児童の特性に応じた個別の支援や**合理的配慮**を行う。
- ・夏期休業中には、学力補充のための「エネルギータイム」、基礎・基本定着のための「チャレンジタイム」を実施する。

『学んだことを基に課題を解決したり、生活に生かしたりする力』（コンピテンシー）からのアプローチ

- ・既習内容や生活経験を基にして、みんなで学習を練り上げていく学び合いの学習を進める。
- ・「学び合い」の中で質問する場を意図的に設け、話の展開に沿った質問、場に応じた質問をする力を伸ばす。
- ・本時の学びを確かめるために、自分の学びを自分の言葉で話したり書いたりする「振り返り」を行う。
- ・特別活動など教科学習以外においても既習内容が生かせるよう、子ども自ら考え自主的に行動する場を設定する。

『学びを支える確かな生活（基本的な生活習慣・基本的自尊感情・社会的自尊感情・社会規範意識）』からのアプローチ

- ・家庭との連携を強化し、発達段階に応じた家庭学習の定着を図る。また、規則正しい生活が**今後も続くように保護者への啓発を継続する。**
- ・学習や生活でのふり返りを通し、子ども自らが自分の成長を感じ取る取組を進める。
- ・**ありのままの自分自身が大切と思える基本的自尊感情を育む。**
- ・様々な方面から積極的に子どもの良い行動を見つけ、認め、褒めることで**社会的自尊感情**を高める。
- ・児童同士が互いの良さを感じ、認め合う取組を進める。

学ぶ力向上策の検証

- ・全国学力学習状況調査の結果を分析し普段の実践に生かす。毎時間の授業における児童の自己評価等を授業改善に生かす。
- ・**0J推進教員を中心に「主体的、対話的で深い学び」のための研修を日々の実践の中で実施する。**
- ・「学校評価」（自己評価、学校関係者評価）を検証し活用する。
- ・「学校評価」や全国学力学習状況調査の結果を生かし、向上策を見直す。（9～10月改訂）

